

するに過ぎざるも、企圖遠大にして且つ堅忍不拔なる彼國民の常として、數年或は數十年の後に至らば、烟突林立として煤烟天を蔽ふの盛觀を呈すべきは、豫想するに難からざるなり。

第三節 交通機關

上述の如く、露國民無慮數萬を移住せしめ、通商上至大且つ密接の關係を有する新疆との交通線は如何、請ふ左に少しく之れを論せしめよ。

中央亞細亞鐵道は、裏海の濱より起り、塔思干タシケンを経て安集延アンジヤンに達せり。所謂塔思干鐵道是なり。安集延よりは、葱嶺を越えて直に喀什噶爾に通ずる馱獸路を有す而して電線は、安集延より國境まで、驛傳は、喀什噶爾に達せり。

又塔思干より東北して、威爾泥舍爾ウエルニセ吉額堡里ギナボリを經セミバラチンスクに好良の大道路あり此地より汽船直に額爾齊斯河イールチスを下れば、オムスクに於て西伯利鐵道に連絡し得べし。露國は近時塔思干よりセミバラチンスクを經てトムスクに到り、西伯利鐵道に連絡するの鐵道を布設すべく、腐心計畫しつゝ在り。

中央亞細亞鐵道

セミバラチンスク鐵道